

# 第 10 回 機械力学

## 運動量の保存則

宇都宮大学 工学研究科 吉田勝俊

講義の情報 <http://edu.katzlab.jp/lec/mdyn/>

# 学習目標

運動方程式を解かずに，運動を調べる 1 つ目の方法

- 質点系の保存則（運動量，角運動量）
- 「質点系」の集合への拡張
- 「剛体」への拡張
- 「質点系」と「剛体」が混在する場合

## 学習方法

全ての例題を，何も見ないで解けるまで反復せよ！

# 運動量の保存則（作り方）

外力 = 0 のときに成立する運動の法則

# 運動量の保存（質点）

## 保存量 の見付け方

が保存する  $\overset{\text{定義}}{\iff}$  時間変化しない  $\therefore \frac{d}{dt}(\quad) = 0$  となる を探す

### ■ 質点の場合 外力 = 0

■ 運動方程式：  $m\ddot{x} = 0 \implies \frac{d}{dt}(\dot{x}) = 0 \therefore \dot{x} = \text{定数}$

■ 結論： 外力を受けない質点は「速度」を保存する。

# 運動量の保存 (2 質点系)

## 保存量 の見付け方

が保存する  $\overset{\text{定義}}{\iff}$  時間変化しない  $\therefore \frac{d}{dt}(\quad) = 0$  となる を探す

■ 2 質点系の場合 外力 = 0 だが, 内力  $\neq 0$  とする

■ 運動方程式:  $m_1\ddot{x}_1 = f, \quad m_2\ddot{x}_2 = -f$

■ 「= 0」を作るために総和:

$$m_1\ddot{x}_1 + m_2\ddot{x}_2 = f - f = 0 \implies \frac{d}{dt}(m_1\dot{x}_1 + m_2\dot{x}_2) = 0$$

■ 結論: 外力を受けない 2 質点系は  $P := m_1\dot{x}_1 + m_2\dot{x}_2$  を保存する.

■ 保存する  $P$  を **全運動量** という. 各  $p_i = m_i\dot{x}_i$  を **運動量** という.

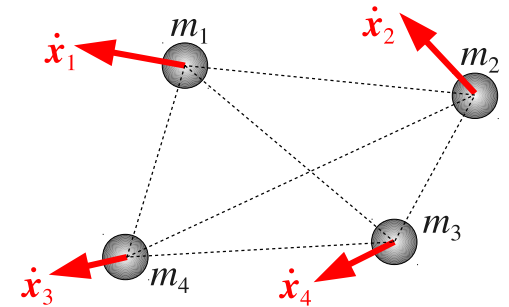
# 運動量の保存 ( $N$ 質点系)

## ■ 3 質点系の場合 (外力 = 0)

■ 全運動量  $\mathbf{P} = m_1\dot{\mathbf{x}}_1 + m_2\dot{\mathbf{x}}_2 + m_3\dot{\mathbf{x}}_3$  は保存する .

## ■ 4 質点系の場合 (外力 = 0)

■ 全運動量  $\mathbf{P} = m_1\dot{\mathbf{x}}_1 + m_2\dot{\mathbf{x}}_2 + m_3\dot{\mathbf{x}}_3 + m_4\dot{\mathbf{x}}_4$  は保存する .



## 力学法則 9.1 (p.88)

外力を受けない  $N$  質点系の全運動量 ,

$$\mathbf{P} := m_1\dot{\mathbf{x}}_1 + m_2\dot{\mathbf{x}}_2 + \cdots + m_N\dot{\mathbf{x}}_N \quad (9.3)$$

は保存する (時間変化しない) .

# 演習タイム 1/2

## ■ 例題 9.1 p.88 (弾速測定器 — Step 1)

# 角運動量の保存 (2 質点系)

## 保存量 の見付け方

が保存する  $\xleftrightarrow{\text{定義}}$  時間変化しない  $\therefore \frac{d}{dt}(\quad) = 0$  となる を探す

■ 2 質点系の場合 外力 = 0 だが, 内力  $\neq 0$  とする

■ 角運動方程式:  $m_1 \mathbf{x}_1 \wedge \ddot{\mathbf{x}}_1 = \mathbf{x}_1 \wedge \mathbf{f}, \quad m_2 \mathbf{x}_2 \wedge \ddot{\mathbf{x}}_2 = \mathbf{x}_2 \wedge (-\mathbf{f})$

■ 総和:  $m_1 \mathbf{x}_1 \wedge \ddot{\mathbf{x}}_1 + m_2 \mathbf{x}_2 \wedge \ddot{\mathbf{x}}_2 = \text{内力トルクの総和} = 0$

$$= \frac{d}{dt}(m_1 \mathbf{x}_1 \wedge \dot{\mathbf{x}}_1 + m_2 \mathbf{x}_2 \wedge \dot{\mathbf{x}}_2) = 0 \quad \because \mathbf{x}_i \wedge \ddot{\mathbf{x}}_i = \frac{d}{dt}(\mathbf{x}_i \wedge \dot{\mathbf{x}}_i)$$

■ 外力を受けない 2 質点系は  $L := m_1 \mathbf{x}_1 \wedge \dot{\mathbf{x}}_1 + m_2 \mathbf{x}_2 \wedge \dot{\mathbf{x}}_2$  を保存.

■  $L$  を **全角運動量** という. 各  $l_i = m_i \mathbf{x}_i \wedge \dot{\mathbf{x}}_i$  を **角運動量** という.

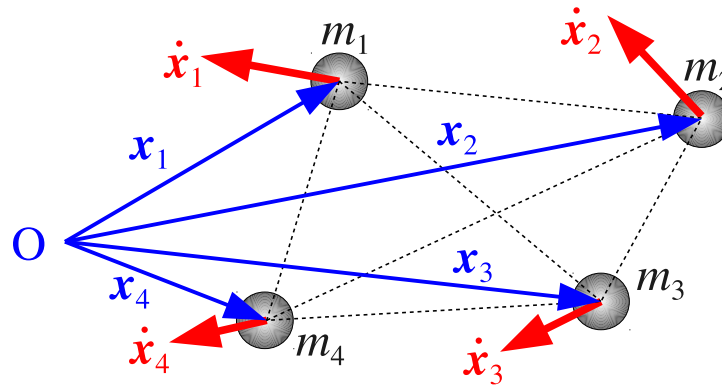


# 角運動量の保存 ( $N$ 質点系)

力学法則 9.2 (p.89)

外力を受けない  $N$  質点系の全角運動量  $L$  は保存する .

$$L := \sum_{i=1}^N \mathbf{x}_i \wedge (m_i \dot{\mathbf{x}}_i) = \sum_{i=1}^N \mathbf{x}_i \wedge \mathbf{p}_i \quad (9.4)$$



# 内力の影響なし

力学法則 9.3 (p.89)

内力の有無や種類は，運動量・角運動量の保存則には影響しない。

∴ 内力を総和・相殺して見付けた保存則だから！

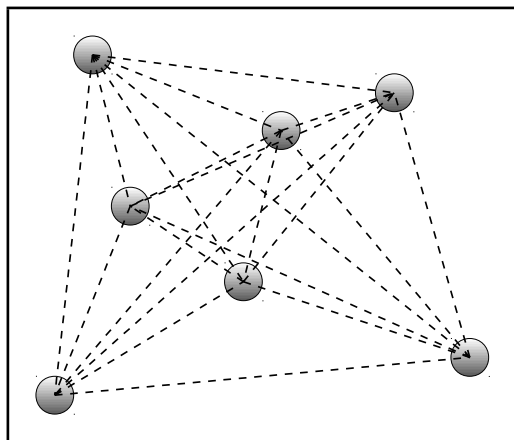
$$\frac{d(\text{運動量})}{dt} = m_1 \ddot{\boldsymbol{x}}_1 + m_2 \ddot{\boldsymbol{x}}_2 = \text{内力の総和} = \mathbf{0}$$

$$\frac{d(\text{角運動量})}{dt} = m_1 \boldsymbol{x}_1 \wedge \ddot{\boldsymbol{x}}_1 + m_2 \boldsymbol{x}_2 \wedge \ddot{\boldsymbol{x}}_2 = \text{内カトルクの総和} = \mathbf{0}$$

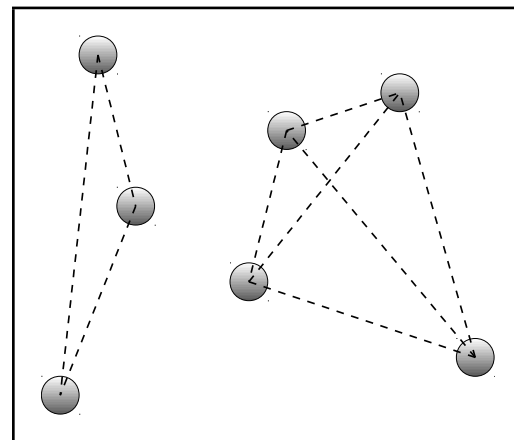
# 「質点系」の集合への拡張

# 運動量の分解

- 外力のない7質点系を考える。
- 運動量の保存則に，内力 (リンク) の有無・形態は，無関係なので，



を分離して



としても，同じ  $\mathbf{P} = m_1\dot{\mathbf{x}}_1 + m_2\dot{\mathbf{x}}_2 + \cdots + m_6\dot{\mathbf{x}}_6 + m_7\dot{\mathbf{x}}_7$  が保存。

- 外力のない質点系の分離だから，分離後も外力はない。

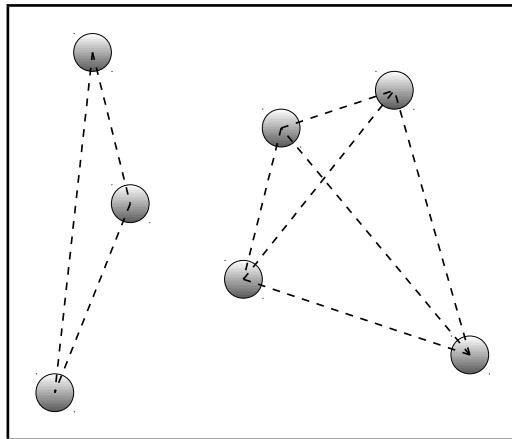
$$\therefore \begin{cases} \mathbf{P}_A = m_1\dot{\mathbf{x}}_1 + m_2\dot{\mathbf{x}}_2 + m_3\dot{\mathbf{x}}_3 \\ \mathbf{P}_B = m_4\dot{\mathbf{x}}_4 + m_5\dot{\mathbf{x}}_5 + m_6\dot{\mathbf{x}}_6 + m_7\dot{\mathbf{x}}_7 \end{cases} \quad \text{がそれぞれ保存。}$$

# 運動量の合成（分解の逆）

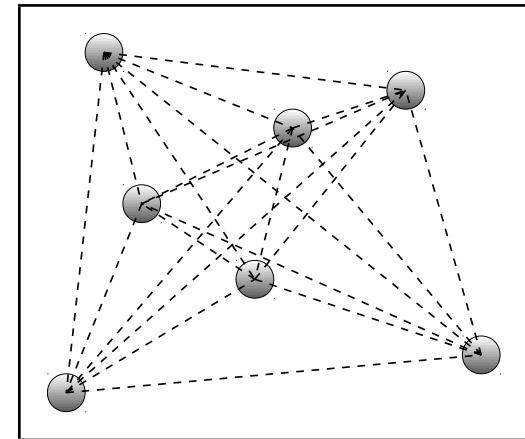
- 外力のない **3 質点系** と, **4 質点系** を考える .

それぞれ  $\begin{cases} P_A = m_1\dot{x}_1 + m_2\dot{x}_2 + m_3\dot{x}_3 \\ P_B = m_4\dot{x}_4 + m_5\dot{x}_5 + m_6\dot{x}_6 + m_7\dot{x}_7 \end{cases}$  を保存する .

- 運動量の保存則に, 内力 (リンク) の有無・形態は, 無関係なので,



を合成した



の運動量  $P = m_1\dot{x}_1 + \cdots + m_7\dot{x}_7 = P_A + P_B$  もまた保存する .

# 運動量・角運動量の保存則 — 「質点系」の集合

角運動量も同様に合成・分解できるので …

## 力学法則 9.4 (p.90)

外力のない質点系を  $M$  個考える．それぞれの全運動量が  $P_1, \dots, P_M$ ，全角運動量が  $L_1, \dots, L_M$  のとき，それらの合計，

$$P = \sum_{j=1}^M P_j, \quad L = \sum_{j=1}^M L_j \quad (9.5)$$

は保存する (時間変化しない) ．

# 剛体への拡張

運動量の保存に，内力の有無・形態は無関係！



リンク長を固定したスケルトン = 剛体  
の運動量・角運動量は保存する．

# 剛体の運動量・角運動量

- 外力のない剛体の運動方程式（ニュートン・オイラー方程式）

$$M\ddot{\mathbf{X}} = \mathbf{0}, \quad I\ddot{\theta} = 0$$

- 保存量：  $M\ddot{\mathbf{X}} = \frac{d}{dt}(M\dot{\mathbf{X}}) = \mathbf{0} \implies \mathbf{P} = M\dot{\mathbf{X}}$  運動量 (定ベク)

$$I\ddot{\theta} = \frac{d}{dt}(I\dot{\theta}) = 0 \implies L = I\dot{\theta} \quad \text{角運動量 (定数)}$$

## 算法 9.1 (p.90)

重心  $X$  , 姿勢角  $\theta$  , 質量  $M$  , 慣性モーメント  $I$  の剛体の運動量  $P$  と , 角運動量  $L$  は ,

$$\mathbf{P} = M\dot{\mathbf{X}}, \quad L = I\dot{\theta} \quad (9.6)$$



# 質点系と剛体が混在する場合

## 力学法則 9.4 再掲 (p.90)

外力のない質点系を  $M$  個考える．それぞれの全運動量が  $P_1, \dots, P_M$  , 全角運動量が  $L_1, \dots, L_M$  のとき , それらの合計 ,

$$P = \sum_{j=1}^M P_j, \quad L = \sum_{j=1}^M L_j \quad (9.5)$$

は保存する (時間変化しない) .

■  $j$  番目の質点系が「剛体」のときは , 算法 9.1 p.90 で計算した ,

$$P_j = M\dot{X}, \quad L_j = I\dot{\theta} \quad (9.6)$$

を代入すればよい .

## 演習タイム 2/2

- 例題 9.2 p.91 (はずみ車の急制動による振り上げ — Step 1)
- 問題 9.1 p.91
- 問題 9.2 p.92